

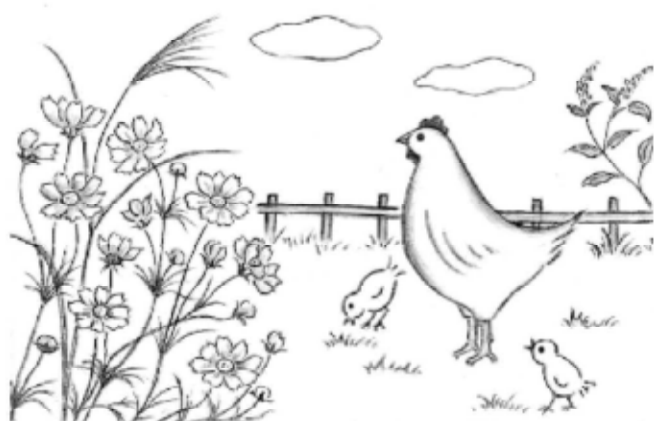
泉のほとり

●三位一体後第十二主日

今日の詩篇「第六十二篇」

わたしの魂よ、

沈黙して、ただ神に向かえ。



狭い戸口から

主イエスは「狭い戸口から入るように努めなさい」と言われました。主イエスがお生まれになったベツレヘムにある降誕教会の入り口は小さく、大人が身をかがめて入ります。体の大きな人は、入るのに苦労します。身を低くして主イエスのもとへ行くようにしているのです。

今日の箇所です。主イエスが言われる戸口とは、天国の扉のことです。その扉は狭いので、そのままつと入ることができません。だから「努めなさい」と言われます。もともとは「開きなさい」です。天国へ入るための開きを、主は求めておられるのです。マタイ福音書の第七章には狭い門の話があります。広い門と広い道があつて、そこを大勢の人が通る。でもその傍らに狭い門と細い道があつて、それは永遠の命に至る。でもそれを見出す者は少ないと言っています。入りたくても入れないのではなく、見つけ出さないのである。

でも今日の箇所では、入ろうとしても入れない人が多いと主は言われます。それだけではなくて、この扉はいつまでも開いているわけではない。家の主人が扉を閉じてしまう時が来る。それまでその扉に入る開きを避けてぐずぐずしていた人たちが、あわてて扉を叩いても「お前たちがどの者か知らない」と言われてしまう。

一体この狭い扉に入る開いとは、どのようなものでしょうか。他のところで主は、「わたしを」主

よ、主よ」と呼ぶ者ではなく、わたしの父の御心を行う者が天の国に入る」と言われました。そうするとこの、狭い扉に入る開いとは、父の御心を行うための開いです。日頃から聞いて見言葉、実際に生きるための開いです。

例えば「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」という言葉があります。よく知られ、愛されている言葉です。でも、悲しみの時に、苦しみの時に、この言葉を思い起こし、その通りに生きることには、開いです。あるいは「仕返しをしてはならない」という言葉、「兄弟に対して腹を立ててはならない」という言葉を、怒りや憎しみで心が支配されそうときに思い起こし、その通りに生きることは、開いです。そういう開いを、主イエスは求めておられるのです。

それは単に、主イエスの言葉を戒めとして実行するというだけではありません。自分を捨て、主のみ言葉に従おうとする時に、必ず神さまの助けがあるのです。神さまが生きておられることが、わかるのです。そういう人に向かつて神さまは「お前たちがどの者か知らない」とは言われません。御心を行うことを通して、わたしたちは父なる神さまと深い心のつながりを持つことができるからです。

祈り

○ 秋の到来を思わせる涼しい風の中を、肉体も心もあなたに支えられ、導かれて、今ここに集まってまいりました。わたし共を呼び集め、主の食卓に与らせ、御言葉を開かせようと備えてくださる父なる御神。礼拝堂に次々と仲間たちが集うのを見るとき、東から、西から、南から、北から、さまざまな異なった生活の中から、そしてその生活を携えたまま、ただひとりの真実の主イエスの御名を呼び、あなたの名を呼ぶために集められている、あなたの恵みの奇跡を思わずにはおれません。

ある者は、病の旅半ばにして、ここに来る志をついに果たすことができ、ある者は、病癒された喜びを抱きつつここにあり、ある者は、さまざまな妨げにようやく勝って、久しぶりにこのところを訪れています。そのような数えきれないさまざまな人生の体験の中で、なおこの場所を慕い、祈りを共にし、何よりも主の食卓の恵みにあずかろうとしています。この志を与えてくださったのは、父なる御神、あなたであります。そのことを心より感謝いたします。

この世界に散っている主の御体としての教会が、大小さまざまな群れを作りながら、なお悩みに耐え、愛にいそしもうとしている姿をも幻のうちに見ることが出来ます。それもまた、あなたが集め、あなたが支えてくださっている群れであります。

その群れのひとつとしてあるわたし共を、ただみ言葉をもって養ってください。あなたの方にはつきりと向ける心をわたし共の中に作ってください。聖い心、新しい心は、いつもあなたに造っていただかなければなりません。

わたし共の唇が汚れ、そして心まで汚れること幾たびであらうかと思えます。あなたの御前に出るときに、なお仲違いしている兄弟がいるならば、まずその人と仲直りをするようにと主イエスは勧めてくださいました。しかし、まだそれを果たさないまま、ここに急いで来てしまいました。そのようにして御心に背いているわたし共であることを認めざるを得ません。そうであるのに、あなたに求めることはいつも貧乏な願いに満ち、人々に求めることもまた自分勝手な願いでしかありません。あなたに心を交えていただかなければ、一筋の心に生き得ないのです。

どうぞ今、御言葉に支えられ、主の食卓の赦しに与って、まっすぐな心に、罪覆われて立つ喜びに生きることができるようにしてください。そこから生まれる平安が、わたし共にとって、生きることが許される限りの地上の命の支えとなりますように。いつあなたに召されるかわからない肉体の命を、喜んで生きることが出来ますように。あなたの平安を願います。恵みの満ち溢れることを願います。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○ 第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーマーサビスがあります。また團舎二階のリズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○ 第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○ 午後一時半から、久しぶりにハイデルベルク信仰問答を学ぶ会を行います。今回は問四六から四九です。

○ 一二月二四日のクリスマス礼拝で受洗・転入会をご希望の方は、入信記を書いて、九月二四日までに、牧師宛お出しください。長く教会生活しておられる求道中の方、他教会員の方、一歩を踏み出しましょう。

○ 古村牧師は、明日から七日まで、札幌で開かれる説教セミナーでの奉仕のために出張します。

○ 例年この時期に、説教塾のための献金をお願いしています。説教塾は日本全国から約二六〇名の牧師が参加しています。特に経済的に厳しい地方の教会の牧師の学びを支えるために献金をいただけると感謝です。事務所のカウンターにある袋をお用いいただいで、献金は事務所へお届けください。

○ 禁園香音楽伝道師は、本日、仙川キリスト教会のコンサートで奉仕をします。どうぞお祈りください。

四国だより

二十数年前にオーストリアの田舎町で空高く伸びて咲いているやさしい紫色（ブルーがかった）の花を見ました。心に残ったその花の名は「ジャカラント」であることを現地の方が教えてくれました。

その魅力的な樹が今は教会の庭で大きく育っています。主が奇跡的な道を開いて下さり、大きな驚きと喜びでオーストリアに住むウエン牧師ご夫妻のもとへ一人で旅立った小さな伝道旅行。その記念日をジャカラントの花が思い出させてくれます。風に揺れながら「主に感謝しましょう。主に感謝しましょう」と、話しかけている様に思えます。

五月・六月と県外に出張が続きました。主の御恵みに包まれて忙しくうれしく過ごす中で、うっかり五月の報告書がまだであった事を忘れておりました。深くお詫び申し上げます。

今年で二度目となりましたが、大津バプテスト教会に属しているアガペー・ローズ・チャーチに毎年五月、ベテスタ聖会のメッセンジャーとしてお招きいただいております。その時には私自身もびっくりしてし

まう主の御業の現われに、皆さまと共に主の聖名をただただ喜びたたえ、主の憐れみに平伏す思いです。

先日ふと気づきましたが、小さな伝道旅行はオーストリアで終わったわけではないという現実を主が語りかけておられる事を確信いたしました。「主よ、わが杯は溢れます」と、主に感謝の毎日です。

五月の教会報告と致しましては教会員の皆様の信仰のうるわしさを主がどれ程お喜びになっておられるだろうと胸が熱くなり、主のお恵みを感じ感動しております。開拓伝道の第一歩より念頭にありましたのは（礼拝堂に貼っております）

- 一 聖潔なる心
- 二 従順なる心
- 三 謙遜なる心

（つづく）

二〇〇七年七月十日 田端良忠

聖書の会

9月6日（水）

○朝の聖書の会（10時）

「別の王がいる」

使徒17章1〜9節

黄 允混 副牧師

○聖書の夕べ（19時）

「送り出された」

使徒13章1〜5節

黄 允混 副牧師

ミニコンサート

9月21日（木）12時30分開演

「この人を見よ」他

ピアノ演奏 原田信次郎

次週礼拝

●第1礼拝（午前9時30分）

讚美歌 301番 讃2-1 57番

説教 「主の弟子になるために」

聖書 ルカ14章25〜33節

説教者 吉村和雄牧師

●第2礼拝（午前11時10分）

讚美歌 59番 341番

詩篇 第62篇

説教 「心のきよい人は」

聖書 マタイ6章22〜23節

説教者 黄允混副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 301番

讃21 57番

説教 「末席に座りなさい」

聖書 ルカ14章7～14節 (新約P136)

司式者 山名隆史 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教 貴允 副牧師

前奏曲「前奏曲ニ長調」S.カレル

○ 讃美歌 301番

- 1.山べにむかいてわれ 目をあぐ
助けはいずかたより きたるか。
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる。
- 2.み神はなれの足を つよくす
み守りあればなれは うごかじ。
みたみをば守るもの まどろみねむりまさじ。
- 3.み神はあだをふせぐ たてなり
ながみをつねに守る かげなり。
よるは月、ひるは日も なれをばそこなうまじ。
- 4.み神はわざわいをも さけしめ
疲れしたましいをも やすます。
いずるおり、いるおりも
たえせずなれを守らん。

アーメン

○ ソプラノによる讃美

「神は共におられる」 C.H.ガブリエル

○ 讃美歌21 57番

- 1.ガリラヤの風かおる丘で
ひとびとに話された めぐみのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 2.あらしの目波たけるうみで
弟子たちにさとされた ちからのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 3.ゴルゴタの十字架のうえで
つみびとをまねかれた すくいのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 4.夕ぐれのエマオへの道で
弟子たちに告げられた いのちのみことばを
わたしにも聞かせてください。 アーメン

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 56番 172番

詩篇 第62編 (旧約P894)

説教 「キリストへの真心」

聖書 IIコリント11章1～6節 (新約P337)

司式者 山名隆史 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教 吉村和雄 牧師

前奏曲「きよけき心を」J.S.バッハ

○ 讃美歌 56番

○ ソプラノによる讃美

「神は共におられる」 C.H.ガブリエル

○ 聖歌隊による讃美

「主はわが牧者」 J.ワグネル 訳：藤本敬三

主はわが牧者 我 乏しきことあらじ
我をみどりの野辺にふさせ
憩いのみぎわに伴いたもう
たとえ死のかげの谷をゆくとも
災いおそれじ
主の我と共にいませばなり
我はおそれじ
清きみぎわに伴いたもう

○ 讃美歌 172番

聖餐曲「我が主のみわざは」S.カーター=エラート

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ

聖餐曲「アンダンテ」F.メンデルゾーン

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ